



# 西前小だより

横浜市立西前小学校

Web: <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/sch/es/nishimae/>



## 「自律」「対話」「創造」～子どもが育つ学校～

校長 鳥飼信幸

目にも鮮やかな新緑の季節を迎えました。草花の芽吹く様子は、健やかに成長する子どもたちを思わせ、教育の夢が広がります。

入学・進級を喜び元気に登校した子どもたち、不安や悩みを抱えながら登校した子どもたち、一人ひとりの気持ちは様々です。保護者のみなさんのご協力のおかげで子どもたちは登校することができています。ありがとうございます。

また、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために休止していた集団登校を再開しました。低学年の子どもたち、特に1年生は安心した表情で、毎朝見守っていただいている学援隊の方々に挨拶して昇降口に向かっていきます。班長さんの一人は、「低学年の頃、みんなと一しょに登校したので安心したことを思い出す」と話してくれました。「集団登校をきっかけに保護者同士のつながりができました」とお話をうかがいました。地域の方が毎朝、家の前で立っていただき、子どもたちの安全を見守りつつ挨拶をしてくださっています。そして、運転手の方に注意の意味も込めて挨拶をしてくださっています。先の十字路で車両もスピードを落としてくれるそうです。「何か地域に社会貢献できないかと考え、子どもの安全・地域の安全を見守ろうということをやっています」と話されました。様々なご意見があるかと思いますが、集団登校へのご理解ご協力ありがとうございます。子どもたちの安全安心のためによりしくお願いします。

今年度も始業式、入学式で話しました「自律」「対話」「創造」は、本校の学校教育目標をキーワード化した言葉です。西中学校との9年間の学校教育目標は、「自ら学び(自律) 友達や社会とかかわり合いながら(対話)ともに新しい社会を創ろうとする(創造)子ども」です。

学習や活動、行事など、すべての教育活動で「子どもが育つ学校」にしていくための目標としています。(学校の主役は子どもであるので、「子どもを育てる学校」ではなく、「子どもが育つ学校」としています。主語が先生ではなく、子どもとしています。)

「自律」を育てるためには、大人がなんでも介入しないことです。「この子のため」という行動が、実は自分で考えたり自分で決定したりする力が育たなくなってしまう。うまくいかないことがあったときに、自分で解決できなくなってしまう。人のせいにしてしまったり、自分はダメな人間だと思ってしまう。そんな人になってほしくないです。しかし、命に関わることやいじめ、差別、人権にかかわる問題等は、未然に防ぐことも含め、大人の力が必ず必要です。

次に「対話」は、ケンカが起きた時、「人はみんな違う」を前提に「対話」をするようにします。私たち学校では、「どうしたの?」「あなたはどうしたいの?」「なにを支援してほしいの?」と聞きます。子ども自らが自己決定をするようにしていきます。

「創造」は、未来の社会に向けた準備段階の場でもある学校として、日々の学校生活を通して、自分らしさを発揮し、未来の創造を目指します。ICT や AI などによる急激な教育変化、グローバル化、多様性、多様な価値観、災害や感染症による問題など、将来を予測することが困難な時代だからこそです。変化に対応できる人になってほしいです。

「自律」「対話」「創造」の3つの目標を達成することはとても難しいです。しかし、少しでも近づくこと、目指すことはできるとおもいます。

「自律」「対話」「創造」に関して、本校で研修をしてくださった横浜創英中学校・高校校長の工藤勇一先生のお話と一致しています。工藤先生はたくさんの著作がありマスコミにも紹介されています。また、教育再生実行会議委員など、国の会議にも出席されています。保護者向けの本もあります。ぜひ、読んでみてください(「麴町中学校の型破り校長 非常識な教え」他)。工藤先生は、教育改革・学校改革で有名な校長先生ですが、なによりも一人の子を大切にされる先生です。私が尊敬する先生のお一人です。

また、「子育て」に関して、今年度の入学式でも私の子育ての失敗談をお話しました。私も試行錯誤しながら「子育て」をしています。

陥りやすい子育ての傾向が「干渉」「矛盾」「溺愛」だとわかってきました。一つ目が、「干渉」です。口を出し過ぎる、世話をやきすぎる。二つ目が「矛盾」です。子どもから見ると保護者が話したり行動したりすることに「矛盾」を感じてしまうこと。最後に、「溺愛」です。過度に甘やかすこと。例えば、「このままでは失敗する」といった保護者の「不安」によって、「やってあげなければならない」「友達とのケンカをなんとかしてやらなければならない」と過度にきまわりする「干渉」、子どもへの「干渉」を正当化しようとする、「乗り越えて成長してほしい」という過去と現在の発言に「矛盾」が生じます。「干渉」「矛盾」「溺愛」の3つは互いにかかり合っています。

「子育て」には、正解がありません。また、学校でも「自律」「対話」「創造」の3つの目標を達成することはとても難しいことです。私たち学校でも試行錯誤しながら「教育」をしています。「教育」も正解がありません。

だからこそ、「子育てをがんばっている保護者」と「教育をがんばっている先生」が、「子どもを幸せにする」「社会でよりよく生きていくことができるような力を身に付けていく」という願いをもち、保護者も先生もお互い尊敬し合って、「子どもが育つ学校」にしていきましょう。ご相談はいつでもかまいません。

また、大人である私たちの行動を子どもたちは見ていることも感じています。子どもたちは、かかわる大人から大きな影響を受けます。それはまさしく、家族であり、先生であり、社会の大人たちです。私たちも「自律」「対話」「創造」を目標に、家族をはじめ、他者を大事にし、誰に対しても思いやりをもって接する大人や何事にも誠実に一生懸命に取り組む大人、ことの善悪を正しく判断しようとする大人、そして、社会の一員として担う責任を果たしている大人などにかかわる子どもたちは、必ず豊かな成長を遂げていくに違いありません。

「大人である私たちの行動を子どもたちは見ていること」のひとつ、一昨年度、西前小だよりに掲載しました「裏方で支える一人として、本校を卒業した高校生(成人した大人ではありませんが)が早朝等に学校周辺のごみを拾ってくれています」という内容は、他者を大事にし、誰に対しても思いやりをもった人であり、何事にも誠実に一生懸命に取り組む人です。そして、社会の一員として担う責任を果たしている人です。

その後も学校周辺のごみをずっと拾ってくれています。それもたった一人でごみ拾いを続けています。とっても「素敵だな」と思う人です。卒業しても母校のことを思い、後輩のために行動していることも裏方で支えてくれる人です。ありがとうございます。

よりよい教育には、よりよい大人の姿が大きな力となります。子どもたちにとって「素敵だな」と思われる大人になれるよう、私も努めていきます。

